

7章 セミナー実施報告

7章 セミナー実施報告

7-1 バレエ団運営スタッフ向けセミナー

● 背景・概要

少人数のスタッフで運営を行っている日本のバレエ団は、日頃の活動の中で、他の芸術団体や企業の経営事例等を学ぶ機会を積極的につくることが困難な状況にある。本事業では、バレエ団運営スタッフの知見を広げる機会として、他分野から講師を招いてのセミナーを年に1回、継続して実施している。セミナーは、他分野の例に刺激を受けて、バレエ団が新たな取り組みを検討・着手するきっかけや、分野を超えて共通する課題の改善に向けた意見交換を行う土壌づくりにもつながっている。

本年度は、日本のプロフェッショナル・オーケストラの統括団体である公益社団法人日本オーケストラ連盟より講師を招いて、バレエ団運営スタッフ向けのセミナーを実施した。

● 実施概要

日 時：2023年2月6日（月）15:00～17:00

場 所：芸能花伝舎 A棟1階 A2会議室（東京都新宿区西新宿6丁目12番30号）

およびオンライン（Zoom）

講師：公益社団法人日本オーケストラ連盟 専務理事 桑原 浩氏

1957年鎌倉生まれ。1981年信州大学卒業。（株）パシフィック・コンサルタンツ・インターナショナル勤務。1988年、新日本フィルハーモニー交響楽団事務局に入社。2013年まで事務局長として勤務。その間、日本国内をはじめ多くの演奏会の制作に携わる。海外においてはモスクワ、サンクトペテルブルク公演、北京におけるオペラ公演、スペインのバルセロナ、マドリッド、中国の大連、瀋陽の公演などの制作に携わる。

2013年より、公益社団法人日本オーケストラ連盟に勤務。現在専務理事。その他、現在、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 理事、公益財団法人アフィニス文化財団 理事、公益社団法人音楽文化創造 評議員、東京国際音楽コンクール〈指揮〉実行委員会 委員を務めている。

<セミナーの様子>



<主なセミナー内容>

1. 日本のプロフェッショナル・オーケストラの現況
 - 連盟加盟団体（25正会員・13準会員）と未加盟団体
 - 運営形態による分類
 - カテゴリー1：自治体・企業より固定費相当の助成のあるオーケストラ
 - カテゴリー2：自治体からの助成があるオーケストラ
 - カテゴリー3：大きな支援団体を持たない自主運営オーケストラ
 - カテゴリー4：その他
 - 定年制の導入
2. コロナ禍における対応
 - 助成金・融資等・クラウドファンディング等の活用
 - 民間企業・個人からの寄付
 - 感染状況と対応策の共有
3. 日本のプロフェッショナル・オーケストラの課題と展望
 - 地方オーケストラの将来性
 - 新たなマネジメント人材の確保
 - オーケストラの“ミッション・ビジョン” 毎のカテゴリー分けの必要性
 - 国際的なオーケストラとは、日本のオーケストラの個性とは
 - 新たな時代を迎えて社会に期待されるものと、伝統の継承
4. 意見交換

<参加団体> (バレエ団名五十音順)

日本バレエ団連盟会員団体である下記の6団体より計10名の運営スタッフが参加した。

- 井上バレエ団：2名
- 小林紀子バレエ・シアター：1名
- 貞松・浜田バレエ団：2名（オンライン）
- スターダンサーズ・バレエ団：1名（オンライン）
- 東京シティ・バレエ団：2名
- 牧阿佐美バレエ団：2名（オンライン1名）

7-2 ハラスメント防止セミナー

● 背景・概要

昨今、ハラスメントのない環境づくりを推進することの重要性が、文化芸術に関わる様々なジャンルで認識されるようになった。バレエ界においても、近年、海外のバレエ団で指導者や振付師がハラスメント問題で解雇される事例が散見されており、日本のバレエ団もハラスメントに関する意識向上を図る必要性を感じている。

バレエのレッスンやリハーサルの現場では、身体を使った表現を追求しているため、身体的な接触も多い。指導者とダンサーの間には上下関係もあり、パワハラやセクハラが比較的発生しやすい環境にあると考えられる。

一方で、日本のバレエ指導者やダンサーたちは、小さな頃からバレエの世界の中で育ち、その環境を当然のことだと思っていることが多いようだ。ハラスメントの可能性のある現場でも、本人たちはハラスメントにあたる気付いていないケースが多のではないかと感じているスタッフも多い。

このような状況を踏まえて、日本バレエ団連盟会員団体のバレエ団の指導者・ダンサー・運営スタッフを対象としたハラスメント防止セミナーを実施した。ハラスメント防止は、健全なダンサー育成やバレエ界の発展のためにも重要なテーマであり、セミナー資料は、日本バレエ団連盟のウェブサイト上での公開を予定している。

● 実施概要

- ・日 時：2023年2月27日（月）15：00～17：00
- ・場 所：芸能花伝舎 A棟1階 A2会議室（東京都新宿区西新宿6丁目12番30号）
およびオンライン（Zoom）

講師：弁護士 東海千尋氏

6歳よりクラシック・バレエを始め高校卒業まではバレエダンサーを目指していたが、大学時代に進路を変更しバレエ・ダンス業界を支える法律家を志す。2009年中央大学法科大学院卒業後、同年司法試験に合格し2010年12月弁護士登録。弁護士法人小野総合法律事務所等の法律事務所にて勤務した後、株式会社リクルート法務部で主に新規事業に伴走する法務支援に従事。2017年に渡米しSanta Monica CollegeでBusiness Department Certificateを取得する傍ら、CoWORK法律事務所を設立しスタートアップ企業の法務支援を開始。2020年に帰国してからは、スタートアップ企業に所属しつつバレエ・ダンス業界の支援を積極的に行っている。公益財団法人日本舞台芸術振興会顧問弁護士、Dance Base Yokohamaリーガルアドバイザー。YouTubeチャンネル「Ballet & Dance TALK」運営。

<セミナーの様子>



<主なセミナー内容>

『バレエ業界の特徴を踏まえたハラスメント問題～禁止ではなく改善に向けた取り組み～』

- 増加傾向にあるハラスメント問題
- バレエ・ダンス業界のハラスメント事案
- ハラスメント事案に対する世の中の意識の変化
- 一律禁止ではなく改善のためのアプローチを
(線引きを知ること、課題を総合的にとらえ解決につなげる必要等)
- パワハラ の定義・パワハラを防止するために
- セクハラ の定義・具体的な事例・セクハラ事案が起きた場合の対応
- ハラスメントが起きない環境を作るために (“フェアクリエイション” の考え方等)
- 質疑・意見交換

<参加団体> (バレエ団名五十音順)

日本バレエ団連盟会員団体である下記の7団体より計21名が参加した。(会議室13名、オンライン8名)

- 井上バレエ団：1名 (指導者兼運営スタッフ)
- 小林紀子バレエ・シアター：1名 (運営スタッフ)
- 貞松・浜田バレエ団：1名 (運営スタッフ)
- スターダンサーズ・バレエ団：3名 (指導者兼運営スタッフ1名、指導者兼ダンサー2名)
- 東京バレエ団：4名 (指導者1名、指導者兼ダンサー1名、運営スタッフ2名)
- 東京シティ・バレエ団：7名 (指導者3名、指導者兼ダンサー2名、運営スタッフ2名)
- 牧阿佐美バレエ団：4名 (指導者2名、運営スタッフ2名)